

課題名	86 常緑果樹の品種選抜	分類	②
	2) 海外から導入した早生系カンキツの特性		
試験研究年次	55年～(継続)		
<p>I 目的</p> <p>海外より導入された早生系のカンキツについて、特性並びに県内における適応性を検討し、自由化対策としての優良品種を選抜する。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 供試品種 カナヅキ8年生クレメンティン、フェアチャイルド、ノハ、リー、ハイジ、MCO</p> <p>2 試験場所 園芸研究所果樹21号圃場</p> <p>3 土壌管理 草生、樹冠下しきわら</p> <p>4 施肥量 窒素30.5、りん酸21.5、カリ24.5 kg/10a</p> <p>5 1区1樹3反復</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 樹性：樹容積は、ハイジ、リーが大きい、葉数が少なく樹勢も弱い。ノハは樹容積は小さいが、葉数も多く充実した葉が密に着生して、樹勢がもつとも強い。</p> <p>2 結実：クレメンティンは着花数が毎年少なく、MCOは隔年結果の傾向があるが、その他の品種は毎年着花量が安定している。しかし、リー、ハイジは奇形花が多く結実率が低い。</p> <p>3 果実：いずれの品種も果実は温州ミカン程度の大きさであるが、ノハとMCOは他の品種に比べて大きい。いずれの品種も果皮色は濃橙色から紅色である。糖度や可溶性固形物含量はいずれの品種も11度以上で高く、クエン酸はフェアチャイルドを除くいずれの品種も12月中に1.0%以下になり、年内に成熟する。いずれの品種も種子が多く含まれるが、特にフェアチャイルドに多く、ハイジとMCOは比較的少ない。</p> <p>4 収量：収量はMCOとノハが多く、次いでフェアチャイルドが多い。</p> <p>5 耐病性：かいよう病の発生は少ない。</p> <p>以上のことから、年内に収穫できる品種としては、MCO、フェアチャイルドが果実の品質変動が少なく毎年安定した高品質果実が生産できる。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 樹の大きさの推移

品種	幹 周 (cm)				樹 容 積 (m ³)			
	59年	62年	63年	1年	59年	62年	63年	1年
クレメンティン	10.6	13.3	13.7	15.3	0.68	0.77	1.14	1.46
フェアチャイルド	7.9	14.7	14.7	17.0	0.47	1.11	2.35	1.79
ノハ	12.0	18.0	20.0	20.5	0.84	1.39	2.91	2.93
リ-	13.3	19.5	21.5	23.5	1.46	2.75	6.90	8.25
ハイジ	13.2	22.5	25.5	28.5	1.61	3.94	8.32	12.52
M C O	14.4	21.0	22.0	23.0	1.59	2.31	3.72	4.39

第2表 収量

品種	62年		63年		1年		累 計		10a当たり 収量
	果数	重量	果数	重量	果数	重量	果数	重量	
	個	kg	個	kg	個	kg	個	kg	kg
クレメンティン	7	0.6	27	1.6	18	1.3	52	3.5	208
フェアチャイルド	30	2.8	84	7.6	79	7.4	193	17.8	1,184
ノハ	55	7.1	96	13.1	82	11.2	233	31.4	1,792
リ-	24	2.3	113	11.9	89	8.8	226	23.0	1,408
ハイジ	63	4.1	124	8.1	112	9.0	299	21.2	1,440
M C O	22	3.1	123	11.5	124	15.1	269	29.7	2,416

注) 10a当たり収量は10a当たり160本植えて、1年度収量から換算

第3表 果実の品質

(1.12.28)

品種	果 形		着 色 程 度	果 皮 色	果 重	果 肉 歩 合	糖 度	可 溶 性 固 形 物	ク エ ン 酸	甘 味 比	種 子 数
	縦 径	横 径									
	cm	cm			g	%		g	g		個
クレメンティン	5.19	6.10	9.2	10.1	97	72	11.4	12.43	0.80	15.5	20
フェアチャイルド	5.37	6.37	9.2	10.8	116	72	12.6	13.94	1.35	10.3	30
ノハ	5.36	6.96	9.2	11.3	145	74	11.8	12.69	1.07	11.9	20
リ-	5.53	6.35	9.2	9.3	117	83	11.6	12.64	0.82	15.4	21
ハイジ	5.18	6.20	9.6	10.5	105	71	11.0	11.70	1.06	11.0	10
M C O	5.75	6.99	8.4	9.7	140	73	11.4	12.48	0.93	13.4	14

注) 果皮色はカラーチャートによる

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 いずれの品種も年内に採取できる早生系の高品質なカンキツで、県内カンキツ産地に適応でき、今後の自由化対策品種選択の資料として利用できる。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 樹勢維持、結実安定法
- 2 無核果生産技術の確立

VII 資料名

63～元年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書